



■ 推薦型選抜入試スタート！

総合型選抜(AO)入試が9月から始まり、先月は多くの入試結果も本校に届いてきています。無事合格通知を受け取った3年生の皆さん、合格おめでとうございます。ただ各種学校への入学がゴールではないはず。残りの高校生活でさらに力をつけ、4月の入学に備えましょう。また、今回の入試では思うような結果が得られなかった3年生の皆さん、これから皆さんの気持ちが試される時です。更なる成長へのチャンスをもたらしたのだと捉え、強い気持ちで前進してください。必ず報われるはず。そして、これから本番を迎える3年生の皆さん、入試本番の直前まで皆さんの実力は伸ばせるはず。最後の最後まで気を抜かず、また諦めず、実力を発揮できるよう一步一步積み重ねていきましょう！

■ 読書について 高校生の読書—受験対策にもなる賢い読書法

先日、「30～40代男性の高収入層では、子ども時代によく本を読んだと回答する人の比率が飛び抜けて高い」という記事を読みました。読書が高い教育達成(高学歴)につながり高給の仕事に就けたのか、能力のある人が好んで本をたくさん読んだのか、因果経路は定かではありませんが、読書が成人後の成功可能性とつながっているということに大きな驚きとともに、当然かもしれないという納得感もありました。読書の秋です、今月は読書について書かれたものを紹介します。



～高校生の読書—受験対策にもなる賢い読書法～

「ねばならぬ」を「面白いから」に変えよう

いちばん大事な時間を削らなくても、読書をする時間を何とか作れませんか？知能の育ちざかりでもある高校生の時代に、少しでも本を読んでおくことが、その後のキミにとって大事なことです。読書時間をひねり出すことはそう難しいことではないはず。例えば、息抜きでテレビを見たり、ゲームやネット、メールなどに時間を費やしたりしている人には、1週間に数時間の読書タイムは簡単に作れるでしょう。また、電車通学の人には、あまり効率がいいとは言えない教科の勉強よりは、本を読むほうが有意義に楽しめます。つまり、読書を「青少年がすべき大切なこと」ではなく、「面白いからする」に変えれば、息抜きの感覚で習慣になるというわけです。

「名作」よりも読みたい本、役立つ本

いちいち、「立派な人」のいうことに逆らうようですが、決してそのような意図はありません。読書習慣のない人に、いきなり名作をすすめるのはどうかな…ということです。名作の推薦には、どこか「立派な人間を作る」というようなニオイがします。でも私は、まず本を面白いと感じて欲しい。そして、読むことが何かに役立ってほしい。今すぐでなくても、1年後には役立つことを実感できる本がよいのです。読書の面白さを知った後は、日本史や世界史、政経、現代社会などの科目に関連した本とか、読解力を養うために少し高度な内容の本を時々読んだりするのが、一石二鳥でおすすめて。中学生への読書のススメでは、「ミエを張るのはツマヅキの元」と書きましたが、高校生の皆さんは、時々、ほんの少しミエを張るのがよいと思います。ミエを張る利点は、背伸び(＝向上心)が自分を伸ばす、ということです。でも、無理は禁物。だから、時々、少しだけのミエでよいのです。

読書をするとうまくいくというのは、日本語能力(語彙力、文法力、読解力、論理的思考力、想像力、表現力など)が鍛えられるからです。受験に役立つのはその一部だと思いますが、高校卒業後(大学生や社会人)にその能力がじわじわと発揮されることは確かです。

文章力は豊富な読書が土壌になる

小論文や作文(エッセイ)がうまくなるためには、できるだけ文章をたくさん書くことが大切ですが、その土壌となるのが豊富な読書経験です。近年は、大学受験にも小論文や作文の試験が増えつつありますし、いずれ卒業論文や就職試験での作文なども待っていますから、文章力が養えるだけの土壌を作っておくことは必要です。いい大学を出ただけで評価される時代は、もう過去のものだと皆さんは知っていますね。豊富な読書から生まれる日本語能力、とりわけ文章力と会話力がこれからの時代の大きな武器となるのです。